

粟津温泉地区

(石川県小松市)

計画期間 平成29年度～平成31年度
面積 32ha
交付対象事業費 487百万円
市人口 108,358人

ポイント 粟津温泉街の中心に位置する旅館が平成24年に廃業したが、景観だけでなく観光振興を減速させる要因となっているため、平成30年の粟津温泉開湯1300年を迎えるにあたり、周辺住民や観光客の交流拠点となる広場として跡地をリニューアルし、温泉街を再生。

地区概要 交流広場整備を核として、地元の地域資源と温泉街を結び、温泉街周辺と街なかの回遊性を高めることより、温泉街のにぎわい再生やその周辺の活性化を図る。

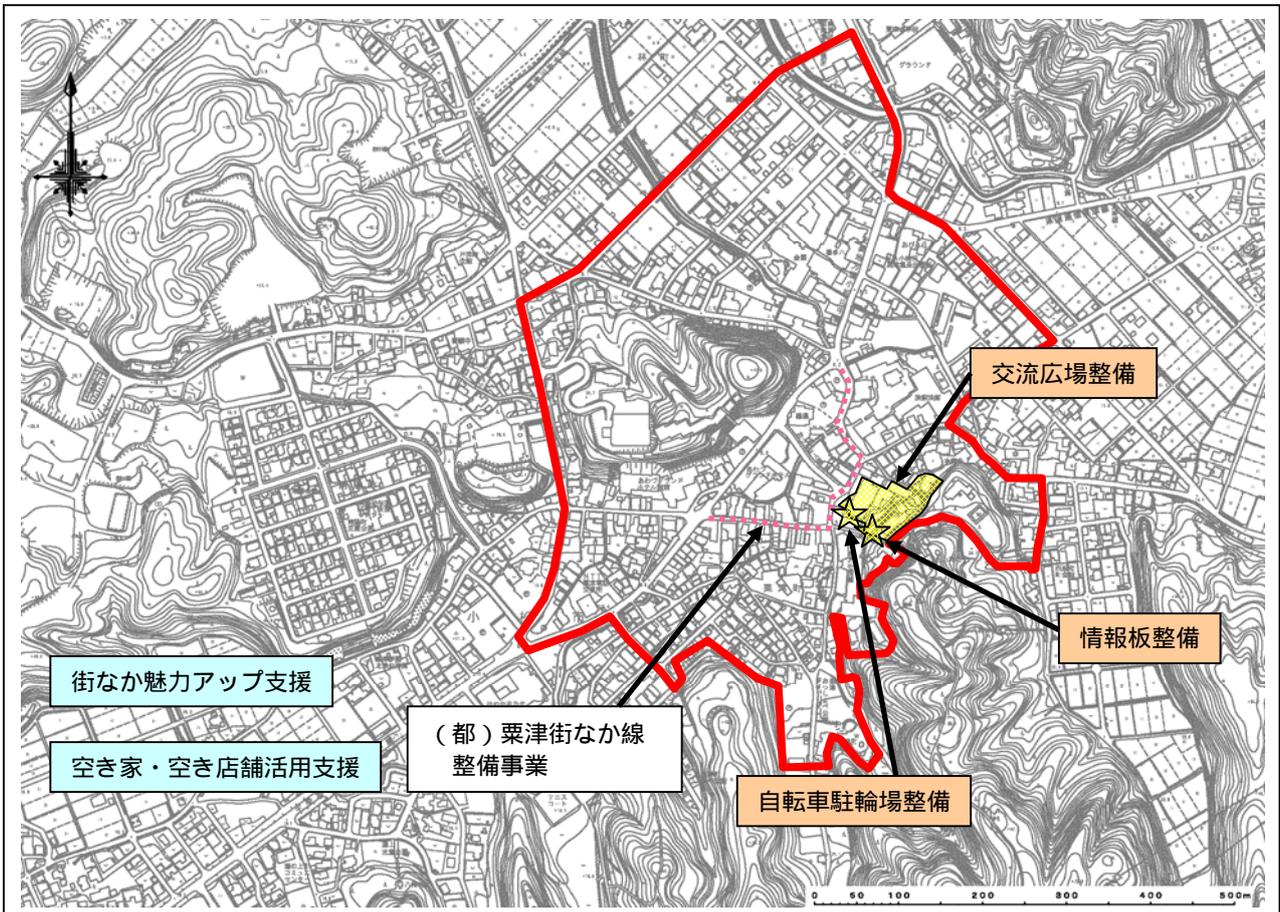
目標 温泉と歴史・寺社をつなぐ回遊拠点づくりにより、温泉街のにぎわいの再生と周辺地域の活性化を図る。

指標 温泉街が魅力アップし、来訪する観光客が増加することにより、周辺施設の入込み客数とまち歩き者が相乗的に増加することを目標とした。

粟津温泉観光数(年)	298,166人 (H27)	→	301,000人 (H31)
総湯外来入込客数(年)	50,346人 (H27)	→	52,600人 (H31)
まち歩き者数(10h)	913人 (H28)	→	970人 (H31)

事業内容 基幹事業(460百万円)
提案事業(27百万円)

交流広場(A=0.48ha)、駐輪場(1ヶ所)、情報板(1ヶ所)
街なか魅力アップ支援、空き家・空き店舗活用支援、



地区の現況と課題

粟津温泉街の中心として、賑わってきた地区であるが、宿泊客が平成5年の約6割まで減少(480千人→300千人未満)してきており、粟津温泉に訪れる観光客数の減少の抑制と温泉街全体の再生が課題となっている。

提案事業の特徴

街なか魅力アップ支援

街なかの回遊性を高める通り沿いの建物外観の修景整備費や装飾に対して、一部助成を行うことで、ハード整備と一体となった景観修景整備を行い、回遊性を高める効果を補う。

空き家・空き店舗活用支援

街なかの空き家・空き店舗の活用の為の改修費に対して、一部助成を行うことで、通り沿いの賑わいを創出し、回遊性を高める。

計画策定プロセス

住民や観光協会、旅館関係者が一体となった「跡地活用会議」から都市再生整備計画の整備方針や今後の活用方法等の意見を聴取し、地元が主体的に将来的な広場の活用と運営することを視野に入れた計画としている。

交流広場については、白山神社・大王寺に隣接していることや粟津温泉が恋人の聖地に認定されていること、開湯1300年を誇る由緒ある温泉街であることから「祈り・結び・いやしの聖地」を整備テーマとして、温泉街の中心に様々な人々が集まってくる広場を目指している。

小松市長のコメント

粟津温泉の中心に位置する老舗旅館が平成24年に廃業して以降、この跡地をどうするかが、粟津温泉を再生する最優先課題となっておりました。今年度が開湯1300年を迎えるにあたり、周辺住民や観光協会、旅館関係者などの地元の方から、粟津温泉を再生するために旅館跡地を活用していきたいという強い熱意を受け、市としても地域の再生のため、地元住民や観光客等が集う交流広場整備を核とした事業を計画いたしました。この整備により街なかをそぞろ歩きする歩行者が増加し、温泉街が活性化することを期待しております。

跡地活用会議の会長のコメント

粟津温泉への宿泊客数も年々減少傾向をたどり、開湯1300年まであと数年に迫ったときに、何かしなければ、この歴史ある粟津温泉はなくなってしまうという危機感が地元関係者の中で生まれました。

それ以降、地元の住民や旅館関係者が心をつたになり、この温泉街を再生するための話し合う機会が生まれ、広場整備を含めた事業を小松市に計画していただきました。整備後は、地元が主体的にこの広場を活用し、粟津温泉を盛り上げていきたいと思っております。

粟津町内会長のコメント

粟津町を含むこの周辺地区にとって、粟津温泉は観光を主とした産業の中心として栄えてきました。温泉街の再生は、周辺に住む地元住民にとっても、最も重要な関心事であり、開湯1300年を迎えるにあたり、地元住民、旅館関係者、市が一体となって温泉街の再生に向けた話し合いが出来たことは、すごく意義があることだと思います。一体となって盛り上げていくという思いを忘れず、粟津温泉が今まで以上に活性化することを期待しております。



交流広場整備前状況



交流広場完成予想図



跡地活用会議